

## 「特別の教科 道徳」研究授業及び分科会における質問内容の回答及び参会者のご感想紹介

回答については、本校道徳教育推進教師の久保田高嶺と藤永啓吾が学習指導要領解説「特別の教科道徳編」等を踏まえて答えさせていただいております。ただし、回答全てが模範的なものというわけではなく、あくまで多様な考えの中の一つであるということをご理解ください。

## ☆ 質問内容と回答

- 道徳科の授業の板書のポイントづくりについて教えてください。

板書の目的は、子どもの思考の整理、きっかけづくりにあります。そのため、授業者が意図的に構造化したり、子どもが自分の考えを書いたり、多くの工夫をすることで、学んでいる内容が、『誰に対してもわかりやすく』につながり、大きなメリットを生むと考えています。

例えば、第〇回と道徳科実施回数を書くと、授業者も子どもも道徳科への取組意識が高くなり、授業前にテーマや主人公の名前、あらすじを簡単にでも書いておくと、その後の展開がスムーズとなります。

しかし、板書に凝りすぎると、対話の時間が少なくなる、具体的になりすぎて、抽象的な事象に対する思考力の高まりを妨げてしまう等のデメリットを生むこともあります。そのため、子どもの発達を考慮した板書を考えていくことが望ましいと考えます。

- まわりの子ども同士で、または他の子どもとの交流が頻繁にあり、その交流も充実しているのを見ると、普段の学級経営や道徳授業の成果を感じました。私としてはもう少し発問を絞ったほうがよいのではないかと思ったのですが、いかがでしょうか？短い時間の意見交換も大切だと思いますが、途中で途切れたり、子どもの思考を途切れさせてしまうような気もして、少し慌ただしい感じがしました。発問を絞り、子どもの意見を深める、そんな発問づくりを考えたいです。参考になりました。

教材やねらい、授業者や子どもの実態に応じて発問を絞り、考えを深めたり広げたりすることは大変効果的だと考えています。

発問とは、子どもが自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたりするための思考や話し合いを深める重要な鍵となります。発問によって子どもの問題意識や疑問などが生み出され、多様な感じ方や考え方が引き出されます。そのためにも、子どもの思考を予想し、それに沿った発問や、考える必然性、切実感のある発問、自由な思考を促す発問、物事を多面的・多角的に考えたりする発問などを心掛けることが大切です。

本校では、発問を構成する場合、授業のねらいに深く関わる中心的な発問をまず考え、次にそれを生かすためにその前後の発問を考え、全体を一体的に捉えるようにするという手順で授業を構成しております。そのため、指導案上には大きな発問を数種類ほど記載しております。ただし、発問とは「子どもの思考を促す問いかけ」であるため、実際は数多くの発問を促していると認識しております。また、その一つ一つが子ども及び授業者の道徳性を養うことにつながっていくものだと考えております。

- 教科化になると、教科書を使用するため、今までの自作教材を用いての授業は難しいのでしょうか？

自作教材を用いての授業を行うことは可能です。学習指導要領解説には「道徳科に活かす多様な教材の開発」の重要性が記載されています。ただし、年間指導計画は、学校の教育計画として意図的、計画的に作成されたものであるため、指導者の恣意による不用意な変更や修正は行われるべきではありません。変更や修正を行う場合は、子どもの道徳性を養うという観点から考えて、より大きな効果を期待できるという判断を前提として、学年などによる検討を経て校長の了解を得ることが必要です。また、教材の変更については「主題ごとに主に用いる教材は、ねらいを達成するために中心的な役割を担うものであり、安易に変更することは避けなければならない。変更する場合は、そのことによって一層効果が期待できるという判断を前提とし、少なくとも同一学年の他の教師や道徳教育推進教師と話し合った上で、校長の了解を得て変更することが望ましい。」ということ十分に理解し、取り組むことが大切だと言えます。

## ☆ 参会者から頂いたご感想の紹介

- ・ 道徳科の考え方や評価の仕方のイメージが膨らみ、とても参考になりました。
- ・ 道徳科の授業で大切なこと（自分自身としての生き方を考えること）を目指して、授業を創っていきたいと思いました。評価についても参考になりました。
- ・ 11月の大会に参加します。大変勉強になりました。
- ・ 提案性のある授業、そして内容盛りだくさんの分科会でとても勉強になりました。教科になって道徳の立場がよりはっきり捉えられるようになったと思います。授業を目標を基につくること、とてもシンプルですぐにやっていきたいと思います。
- ・ 常に子どもがペアで意見を交換し合い、それを全体に伝え、その内容について発問があり、そして子どもの発言で互いが磨き合いながら50分が進み、語り合いの中で人としての道徳観が高まっていく授業で、とても勉強になりました。掲載
- ・ 幼児なので、普段の生活で個別に関わりを伝えたいと思いました。
- ・ 評価の具体的見本が見れてよかったです。ありがとうございました。
- ・ 中学校の道徳科の授業を見て、細かいところまで考えられた指導だと感じました。コミュニケーションの多さ、丁寧なやり取り、ロールプレイング、すべてが子どもの成長につながっていたと考えました。
- ・ 小中で同じ教材というのも、子どもの成長がわかりやすく、よかったです。講義もすごく分かりやすかったです。
- ・ 限られた時間でしたが、中身が濃く、たくさんの気付き、学びを得ることができました。評価についても整理していただき、理解が進みました。
- ・ 恥ずかしいことに「道徳が楽しい」と思えず、毎週「苦しいなあ」と思いながら授業をしています。しかし、中学校の授業者が「私も君たちから学ばせてもらいます」と言われていたように、子ども達と共に、視野を広げたり、価値を深めたりできるように「頑張ってみようかな」と思えました。うまく授業を組み立てられる気がしませんが、まずは先生の真似からやってみたいと思います。ありがとうございました。

- ・ 小中で同じ教材が使われていたのが印象的でした。とても勉強になりました。ありがとうございます。
- ・ 小中が同じ教材での授業を拝見することで、授業づくりについて自分の考えが深まりました。ありがとうございました。
- ・ 先生方の楽しそうな授業での姿を見せられて、日々の取組が大切だと思いました。道徳科の授業、とても参考になりました。特に評価についてはよくわかりました。
- ・ 役割演技の可能性を知ることができました。子どもたちが生き生きと活動していた姿が印象的でした。勉強になりました。ありがとうございました。また、勉強させていただきたいと思います。よろしくをお願いします。
- ・ 同じ教材を用いての授業で、子どもの発達段階の違いに応じた授業を参観することができました。グループやクラスでの交流、授業構成、発問など多くを学ばせていただきました。ありがとうございました。
- ・ 小学校の授業を参観させていただきました。子どもの意見のみならず、姿勢、態度を認める温かな声掛けなど、授業者が子どもに接しておられる姿（道徳科の先生の姿）も、道徳性の一つだなど、とても魅力的に感じました。ありがとうございました。
- ・ お世話になりました。評価の具体的な事例が提示され、とても分かりやすかったです。
- ・ とても有意義な時間でした。もっと多くの時間で聞きたいと思いました。
- ・ 小中と、各年齢に合った授業が見れてよかったです。

文責：山口大学教育学部附属小・光中学校  
道徳教育推進教師 久保田高嶺  
藤永 啓吾